

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	35人	算数	35人	理科	35人
第5学年	国語	34人	算数	34人	理科	34人

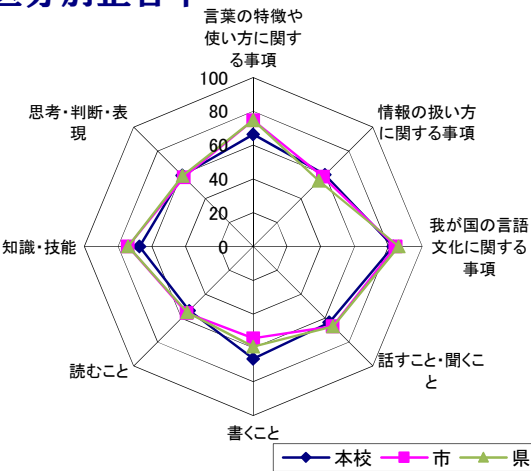
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.4	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	60.0	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.9	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	63.6	66.7	66.9
	書くこと	66.4	54.3	59.3
	読むこと	53.6	55.6	55.2
観点	知識・技能	67.3	74.1	74.0
	思考・判断・表現	59.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

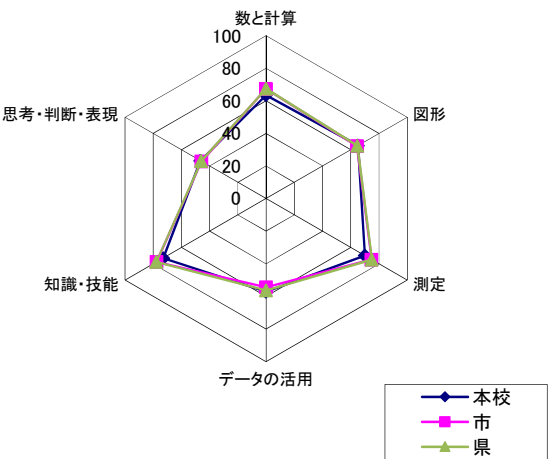
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題の正答率は、市や県より25ポイント以上低い。	・漢字の学習において、正しい読み書きの習得を図れるように家庭学習や朝の学習で継続的に指導をする。 ・多くの用例や児童自身が作る文を通して、語と語の関係を楽しみながら捉えられるようにする。 ・日常的に、話したり書いたりするときには、伝える相手や目的に応じて主語、述語、修飾語を適切に用いることを意識させる。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかをみる問題では、市や県の正答率を上回った。	・国語科に限らず他教科等の調べ学習や日常生活の中でも辞書や辞典を積極的に活用できるようにし、引き続き学習意欲を高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや低く、県の平均より低い。 ●漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解しているかどうかをみる問題では、市や県の正答率を下回った。	・漢字の学習において、漢字のへんやつくりなどから、漢字を調べたり、漢字の読み方を推測したりする活動を多く取り入れ、漢字の構成を理解させる。 ・漢字の特徴を捉えて楽しく練習できるよう、活動を工夫する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は、市や県より5ポイント以上高い。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる問題の正答率は、市や県より10ポイント以上低い。	・教科や学級活動での話し合い活動の充実を図り、話したり聞いたりする活動を意図的に取り入れる。 ・友達の意見を聞き、それに対して自分の意見を発表するという場面(ペア・グループ・全体など)を多く設定する。 ・日頃から、自分の考えや根拠を明確にして相手に伝える活動を習慣付けていく。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○指定された長さで文章を書いたり、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書いたりする問題の正答率は、市や県より10ポイント以上高い。	・児童にとって興味・関心がわくようなテーマを選んだり、字数制限付きの短い文章を書かせたりすることで、書くことの楽しさを味わわせる。 ・日記等、文章を書く場面を多く設定し、書く力の定着を図る。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題の正答率は、市や県より7ポイント以上高い。 ●登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題の正答率は、市や県より8ポイント以上低い。	・積極的に学校図書館を利用し、文章を読む機会を多く設ける。 ・文学作品を読んで、場面の様子や登場人物の気持ちなどについて読み取ったことを話し合う活動を取り入れ、どの叙述から読み取ったのか明らかにしながら説明したり、多様な考えに触れ、考えを深めたりする機会を設けていく。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.5	67.3	67.4
	図形	65.1	64.5	64.7
	測定	70.0	74.7	74.9
	データの活用	57.1	54.4	56.4
観点	知識・技能	73.0	77.6	77.8
	思考・判断・表現	46.6	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

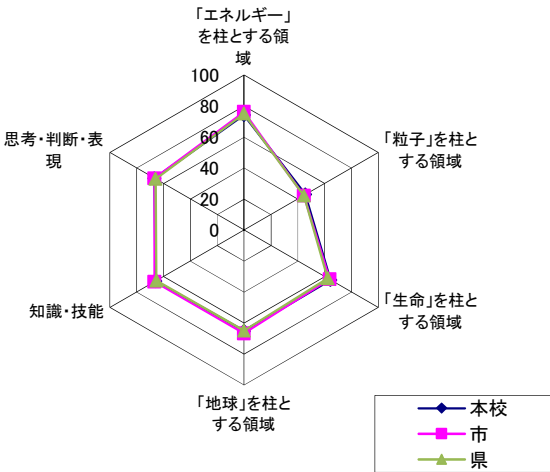
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ●1000や0.1をもとにした大きな数や小数の表し方については、市や県の正答率を下回っている。 ●数直線の目盛りが表す数の大きさを分数で表す問題では、市や県の正答率を10ポイント以上下回っている。 ●基礎的な計算問題のほとんどで、市や県の正答率を下回っている。	・大きな数や小数、分数、計算等の基礎的な内容について、授業だけでなく、朝の学習や家庭学習の中でも、計算ドリルやAIドリル等を活用して繰り返し練習を行い、学習内容の定着を図る。
図形	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○二等辺三角形の作図や、円をもとにコンパスで正三角形が作図できることを説明する問題では、市や県の正答率を大きく上回っている。 ●円や球の半径と直径に関する問題では、市や県の正答率を下回っている。	・今後も、コンパスや定規などを使用して作図をする際には、児童一人一人の状況を把握し、個に応じた指導をしながら理解を深められるようにする。 ・具体物の操作活動や、実物投影機などのICTも活用しながら、図形の性質を視覚的に捉えさせ理解できるように指導する。
測定	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○はかりの目盛りを読み取る問題では、市や県の正答率を上回っている。 ●地図をもとに道のりの和を求める問題や、時間が経過する前の時刻を求める問題では、市や県の正答率を下回っている。	・日常生活の中で長さや重さなどの大きさを推測、測定する機会を意図的に設けたり、長さや重さの学習では、具体物の操作や体験活動等を多く取り入れ、児童が意欲をもって課題解決に取り組んだりできるように指導する。 ・時刻と時間においては、日常的に時間の感覚を意識するような機会を設定し、定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○棒グラフから情報を読み取る問題や、2つの棒グラフを目盛りの違いに注意して読む問題では、市や県の正答率を上回っている。	・他教科も含めた学習の中で、身の回りの事象について、児童の興味・関心や問題意識に基づき、表や棒グラフに表す活動などを位置付け、身近なものとして感じられるよう課題の工夫を行う。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.3	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	45.7	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	64.4	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	65.1	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.9	66.8	65.4
	思考・判断・表現	66.8	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均より低い。 ○電気が流れるつながりを問う設問では、94.3%の児童が正答しており、県・市の正答率を5ポイント程度上回った。 ●風の強さと車が動いた距離の関係を問う設問では、県・市の正答率を10ポイント以上下回った。	・観察や実験を通して実際に体験した学習内容についての正答率が高いことから、基礎的な知識が確実に身に付くよう、今後も実験や観察を効果的に実施し、結果を吟味したり考察したりする時間を確保して、妥当な結論を導き出す学習の流れを定着させる。 ・エネルギーの大きさと引き起こされる事象の関係について、量的・関係的な視点で捉えることができるよう、実験結果を表やグラフに整理したり、動画などの視覚的な資料を活用したりする活動を取り入れ、実感をもって理解できるよう支援していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均より高いが、領域全体の正答率が45.7%と低く、定着に課題がある。 ○ものの重さを根拠に材質を問う設問では、85.7%の児童が正答しており、県・市の正答率を8ポイント程度上回った。 ●形を変えた粘土の重さについて問う設問では、県・市の正答率を7ポイント程度下回った。	・姿勢を変えた時の体重がどのようになるかを問う設問や形を変えた粘土の重さについて問う設問の正答率が低い原因として、初歩的粒子概念の獲得に課題があると考えられる。粒子が保存される以上、重さは形を変えても変化しないことを理解するため、形を変えた粘土や水の重さを計測する活動などの体験活動を十分に取り入れるとともに、粒子の存在や保存に関する初歩的粒子概念に基づくモデルを積極的に取り入れて指導していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の平均より高い。 ○昆虫の育ち方や昆虫の体のつくりの特徴を問う設問の正答率が、県・市の正答率を大きく上回った。 ●虫眼鏡の正しい使い方を問う設問では、県・市の正答率を10ポイント以上下回り、かつ正答率が5.7%と定着に課題がある。	・虫眼鏡等の用具の使い方については、観察や実験の際に毎回児童と確認し、確実な定着を図る。 ・昆虫の体のつくりで代表される共通性の視点と生物の多様性の視点の両方の視点から、身の回りの生物に関する事象を捉えられるよう、教材を工夫したり意図的な発問を行ったりする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均よりやや高く市の平均より低い。 ○日なたと日かげの地面の温度変化を問う設問では、71.4%の児童が正答し、県・市の正答率を5ポイント程度上回った。 ●かげと太陽の位置を問う設問や、実験の記録からかげの動く様子を問う設問では、県・市の正答率を5ポイント以上下回った。	・時間と共に移動する太陽の位置と影の位置の関係や、太陽の高さと影の長さの関係を捉える学習は、空間内の位置関係を捉える力が必要であり、直感的な理解が難しい内容である。そのため、実際の太陽と影の動きを追う実験を丁寧に行うとともに、室内で光源を使い、光源の高さと影の長さの関係を捉える実験を行うなど、体験をもとに理解する学習を取り入れていく。理科室での実験と実際の現象の観察を往還して、理解を深められるようにする。

宇都宮市立海道小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」という質問についての肯定的な回答が県平均を上回った。特に、はいと回答した割合が県平均を14.3ポイントも上回った。計画的な家庭学習への取り組みが効果的であったと考えられる。今後も、日々のチェックと励ましに努めていきたい。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」という質問について、11さつ以上と答えた児童の割合は48.6%で、市や県の割合に比べて2倍以上高い。学校図書館司書と連携した様々な取り組みの成果が表れていると考えられる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問についての肯定的な回答が85.7%と高かった。県の平均を4.1ポイント上回っており、個に応じた丁寧な指導をしてきた成果と考えられるので、今後も一人一人を大切にしながら、わかりやすい授業展開に努めていきたい。

○「本やインターネットを利用して勉強に関するじょうほうを得ている」という質問についての肯定的な回答が68.6%であり、県平均を12.4ポイントも上回った。日々の授業において、学校図書館司書との連携や1人1台端末の活用を積極的に図っている成果と考えられる。

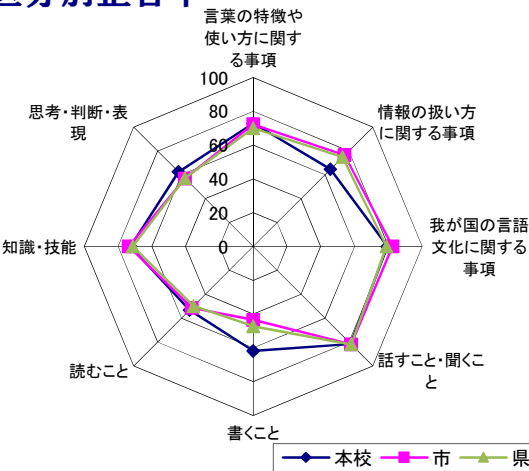
●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という質問についての肯定的な回答が県平均を下回った。今年度の経営方針である間接ほめの実践を通した児童一人一人のがんばりやよさの見取りと共有、活躍の場の積極的な設定を行い、児童の自己有用感の向上を図っていきたい。

●「1日にメディアやゲームをどれくらいしますか」という質問では、どちらも県平均に比べ多い傾向にあった。また、「1日のうちにどれくらいの時間すいみんをとりますか」という質問についても県平均と比べ少ない傾向にあった。ICT機器の普及によりメディア等の利用時間が増えていると考えられるため、メディア等との適切な関わり方を指導し、規則正しい生活ができるよう指導していきたい。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.9	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	64.7	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	79.4	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	81.6	81.9	82.0
	書くこと	61.8	43.5	47.2
	読むこと	53.3	51.4	49.8
観点	知識・技能	72.7	73.6	71.3
	思考・判断・表現	62.5	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

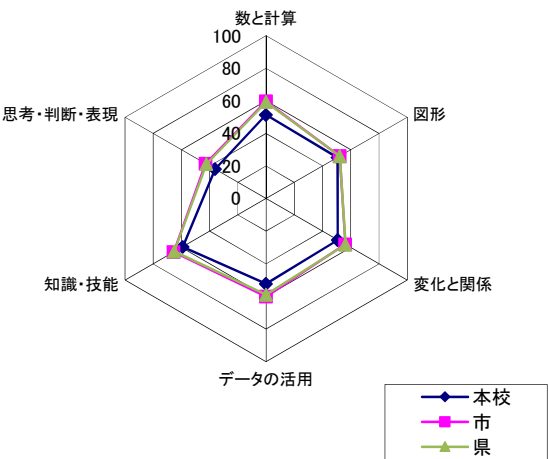
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の正答率よりやや高い。 ○漢字の読みに関しての正答率はすべて県や市の正答率より高い。 ●漢字の書き、連体修飾語に関しての問題の正答率は、県や市より低い。	・今後も漢字の学習においては丁寧な指導を行うことで、正しく漢字を読んだり書いたりする力の習得を図る。 ・短文作りや日記等を書く活動を取り入れ、既習の漢字を使う習慣を身に付けさせる。 ・言葉と言葉の関係性や文の組み立てについての指導を継続的に取り入れ、修飾語についての理解を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の正答率より低い。 ●漢字辞典の使い方の問題は県や市の正答率より低い。	・授業や家庭学習で積極的に漢字辞典を活用することで、漢字の画数や部首を意識して学習を進めることができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の正答率より低く、県の正答率よりやや高い。 ●文を読み、適することわざを選ぶ問題は、市の正答率より低く、県の正答率よりやや高い。	・授業や家庭学習などで、ことわざに触れる機会を多く設け、意味や使い方を正しく理解できるようにする。 ・ことわざの由来を調べるなど学習活動を工夫し、ことわざに興味をもてるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の正答率とほぼ同程度である。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える聴き取り問題では、市・県の正答率より2.1ポイント以上高い。	・教科や学級活動での話し合い活動の充実を図り、話したり聞いたりする活動を習慣付けていく。 ・「相手」「目的」「伝達方法」をはっきり意識させながら、スピーチや自分の考えを伝える活動、話し合い活動などを繰り返し国語の学習の中に位置付ける。
書くこと	平均正答率は、すべて市・県の正答率より高い。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができるかどうかをみる問題は市の正答率より30ポイント以上高い。	・「話すこと・聞くこと」「読むこと」と関連付けた学習活動を工夫する。 ・「相手」「目的」を明確にし、「文章の型」をもとに分かりやすい文章が書けるようにする。 ・学習したことを工夫してノートにまとめる活動や、短く、主語、述語のある文章で授業の振り返りを書く活動などを継続的に行う。
読むこと	平均正答率は、市・県の正答率よりやや高い。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやりとりを読み、その思いを共有することができるかどうかをみる問題では、市の正答率より18.5ポイント以上高い。 ●登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉える問題、情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題は、市・県の正答	・積極的に学校図書館を利用し、文章を読む機会を多く設ける。 ・目的に応じて必要な叙述を見つけたり、文章構成や筆者の考え、論の進め方について読み深め、自分の考えを表現したりする活動を習慣付けていく。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	51.4	59.7	59.2
	図形	50.5	52.1	52.1
	変化と関係	50.7	56.1	56.3
	データの活用	52.2	60.1	58.9
観点	知識・技能	59.1	65.5	65.1
	思考・判断・表現	36.2	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

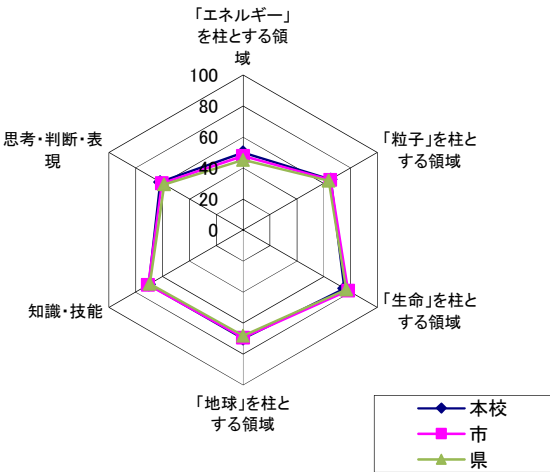
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○大きい数の読み方として正しいものを選ぶ問題の正答率は市や県より高い。また、数直線上の目もりが示す分数を読み取り、仮分数で表す問題では、市や県の正答率よりやや高い。 ●小数の大きさの順で正しいものを選ぶ問題では、正答率が市や県よりも18ポイント以上低い。	・基礎・基本事項について、今後は計算ドリルやAIドリル等を活用して繰り返し解いたり、既習の内容の復習を朝の学習や家庭学習の中で進んで行ったりして、学習内容の更なる定着を図るようにする。 ・授業の中で小数と分数の性質を理解させ、比較する際に必要なことが何かを理解する機会を設け、丁寧に習熟を図っていく。
図形	平均正答率は、市・県の平均よりやや低い。 ○三角定規を利用して正しい角度を選ぶ問題の正答率は市や県より4ポイント以上高い。また、身近なものの面積と単位として正しいものを選ぶ問題の正答率は市や県より6ポイント以上高い。 ●面積の単位の関係を説明する問題では、市や県の正答率よりも7ポイント以上低い。また、複雑な図形の面積を求める問題では、市や県の平均より18ポイント以上低い。	・今後も身のまわりの図形に関心をもたせ、日常生活と関連させながら、図形についての理解を深め、学習内容の定着に努める。 ・面積の単位の関係について、単位正方形の1辺の長さに着目させたり、表を用いて単位の関係性に着目できるようにさせたりして丁寧に習熟を図っていく。 ・デジタル教科書や一人一台端末などを活用して、面積の求め方を指導したり、様々な図形の性質を視覚的に捉え、理解できるようにしたりする。
変化と関係	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○表を横に見て、周りの長さがいくつ増えるか答える問題では、市や県の正答率より3ポイント高い。 ●数量の関係について正しく表された図を選ぶ問題では、市や県の正答率より14ポイント以上低い。変わる2つの数量の関係を表す問題の正答率は17.7%で、市や県より5ポイント以上低い。	・日常生活の場面の中から、伴って変わる二つの数量の関係を見つけ、数量の関係を表に表したり、表から式に表す活動を取り入れたりすることで、学習内容の定着を図っていく。 ・授業の中で表や式を用いる活動を増やし、変化や対応の特徴を考察させ、理解を深められるようにする。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○二次元表を正しく読み取り、条件に当てはまる部分を選ぶ問題の正答率は、市や県よりやや高い。 ●折れ線グラフから変わり方を読み取る問題では、市や県の正答率より15ポイント以上低い。また、二次元表を読み取り、条件に当てはまる数を求める問題の正答率は、17.7%で、市や県より4ポイント低い。	・身の回りの問題から、目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉える活動を多く取り入れる。 ・多面的に捉え考察したことを、友達に説明したり、文章に表したりする活動を設定し、根拠をもつことを大切にしていける。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.0	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	65.2	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	75.3	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	70.1	69.5	68.1
観点	知識・技能	70.3	70.8	69.5
	思考・判断・表現	61.8	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の正答率と比べて高い。 ○簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える問題では、市の正答率より17.1ポイント高い。 ●並列つなぎの名称を答える問題では、市の正答率より7.9ポイント低い。 ●電流が大きくなる回路を選ぶ問題では、市の正答率より2.5ポイント低い。	・並列つなぎや直列つなぎといった理科特有の用語の定着に課題が見られることから、学習中に正しい用語を用いて説明する機会を積極的に設けるだけでなく、ものづくりの場面で用途に合わせてつなぎ方を選択し、活用するなど、用語を使いたい、身につけたいという意欲を高めていく。 ・電流の基礎となる内容の着実な定着を図るため、実験する時間を十分に確保し、回路作りの操作を通して体験的に理解できるような学習を展開する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市とほぼ同じで県と比べてやや高い。 ○金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化について正しい文章を選ぶ問題では、市の正答率より4.6ポイント高い。 ○氷がもり上がる理由を答える問題では、市の正答率より8.2ポイント高い。 ●示温インクの色の変わり方(水のあたためり方)を選ぶ問題では、市の正答率より5.7ポイント低い。	・水の温まり方の概念が定着しにくい原因として、水そのものの動きと水が温まっていく温度変化の様子を混同してしまうことが考えられる。加熱した水の動きを見る実験を行うとともに、その水の動きによって熱がどのように伝わっていくのか調べる示温インクの実験を行い、二つの結果を見比べて考察することで、水の温まり方を理解できるよう、丁寧な指導を行う。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県・市の正答率と比べて低い。 ●季節の変化と身の回りの生き物のようすの関係について答える問題では、どの問題も市の平均より5ポイント程度低い。	・学校の周りの自然林を活用し、学習したことと生活との結びつきを感じることができるようにしていく。 ・観察においてはただ見るだけでなく、目的意識や問題意識をもって取り組めるよう、ポイントを絞って指導していく。 ・一年を通した生き物の様子の変化について、樹木や生物の様子を一人一台端末を使って記録し、比較することで、一人一人が主体的に季節と生物の関係を捉えられるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の正答率よりやや高く、県の正答率より高い。 ○水そうの水が減った理由を選ぶ問題では、市の正答率より9ポイント高い。 ●星の明るさと色についてあてはまる言葉を選ぶ問題では、市の正答率より8.4ポイント低い。	・月や星に関する学習については、学校にいる間は観察できないため、家庭の協力を得ながら、時間をかけて観察し、実際に見た月や星の様子をもとに学習できるようにする。また、意欲を高めたり、理解を深めたりすることができるよう、一人一台端末などのICT機器や視聴覚教材を適切に活用していく。

宇都宮市立海道小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答は100%であった。また、各教科に対する「しょう来のために大切だと思いますか。」の質問も肯定的回答が100%であった。引き続き、学習内容と日常生活を関連付けながら授業を進める工夫をすることで、児童が将来へ向けて意欲・関心を持って授業に取り組めるように努めていく。

○生活習慣に関する質問において、肯定的な回答が多く、基本的な生活習慣がよく身に付いていることが分かる。○「自分には、よいところがあると思う」への肯定的回答は県平均を8.6ポイント上回った。日頃より児童一人一人のよさを認め、励まし、伸ばしていく声掛けをしていることがこのような回答に繋がったと考えられる。

○「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」への肯定的回答が94.1%と高く、特に「はい」と答えた児童の割合が、県平均を21.9ポイントも上回った。人権週間やいじめゼロ集会などの取組が、児童の思いやりの心の育成の一助となっていると考えられる。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答が県平均を上回った一方で、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問に対しては、県平均を下回った。伝えあったり、協力したりする活動を授業内により多く設定することで、発言しやすい雰囲気づくりに努めていく。

●「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」や「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答は、県平均を10ポイント程度上回った。その一方で、「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の肯定的回答は、県平均を14ポイント下回った。ICT機器の普及により、本や辞書等の使用頻度が減りつつあることが考えられるため、司書と協力しながら、日頃から本に親しめるような工夫をしたり、授業で辞書を活用する場面を増やすことで、ICT機器との併用を目指していく。

宇都宮市立海道小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図る。	国語の「書くこと」の領域においては、4・5年生ともに正答率が市・県と比べて上回った。昨年度から、表現力の育成を図ってきた結果が表れた。しかし、算数の「数と計算」の領域においては、ともに市・県の平均を下回った。
対話的な学びを通して、共に高め合える集団作り	協働的な学び合いを通して、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを見直す活動を大切にすることで、深い学びの実現を図る。	児童質問紙調査の「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている」では、5年生の肯定的回答は91.2%で県の平均より11.4ポイント高く、4年生の肯定的回答も市や県よりやや高かった。
児童が自分で成長を実感できる振り返り活動の工夫	単元や内容のまとまりを見通した授業展開と見通しと振り返り活動を重視した授業作りを行う。また、児童一人一人のがんばりやよさを見取り、教師が価値づけをすることで、児童が自分で成長を実感できるような支援をし、自信をもって学びを深める児童の育成に努めている。	「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問の肯定的な回答率は、4・5年生ともに市や県をやや下回った。「先生は学習のことについてほめてくれる」や「自分には、よいところがあると思う」の質問の5年生の肯定的回答はどちらも市や県を上回った。4年生の肯定的回答も市や県と同程度である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「話すこと・聞くこと」の領域において、4・5年生ともに正答率が市・県と比べてやや低い。児童質問紙では、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」は、4・5年生ともにほとんどの児童が肯定的な回答をしているのに対して、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答は、4年生が45.7%、5年生が44.1%と低かった。	相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、自分の考えを分かりやすく表現する力（聞くこと・話すこと・話し合うこと・書くこと）を育成するための言語活動の充実を図る。	授業において、自分の考えを記述する機会を意識的に設けたり、相手意識をもって自分や他者の考えに理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図る。 また、分かりやすく説明したり、児童の思考や友達の考えの理解を深めたりするために、一人一台端末を効果的に活用していく。